

上野檜原シオジ等生物群集保護林

群集-6

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 群馬森林管理署
所在地	群馬県 多野郡 上野村
面積	290.19ha
設定年	1955(S30)年
保護林の概要 (設定目的)	一帯にはシオジを主体とした溪畔林が形成され、溪畔域といった特殊な立地における植生遷移の生態学的考証の場として学術上貴重である。また、北沢一帯は、シオジ天然分布の北限にあたり、植生分布上も貴重である。このため、シオジの優占する溪畔林を主体とする地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	2008年、2013年、2018年、2023年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、保護林内における代表的なシオジ群落が形成されている林分に計2か所の調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測および植生の種組成の概要を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。
結果概要	シカの影響(剥皮、食痕)が多数確認され、林床植生の植被率は低く、前回と比較して大きな変化はないことから、ニホンジカの影響が継続していると考えられる。保護対象種のシオジは老齢の個体が多く、後継樹となる低木は各プロットに1本程度見られるのみであるが、林床には実生が確認されている。シオジ群落の持続的な保全のためには実生の育つ環境の保全が必要と考えられるため、防護柵の設置や個体数管理など具体的なシカ対策について検討の必要がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。